

# 里山シンポジウム

平成20年2月24日  
松山東雲短期大学 D館3階

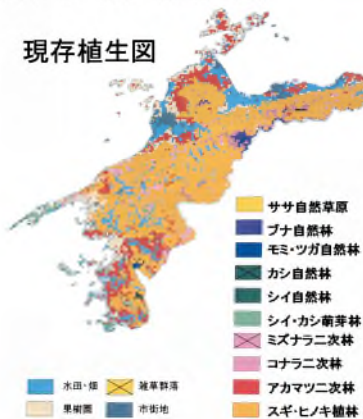
最初に松井先生に里山の移り変わりについて基調講演をいただきました。



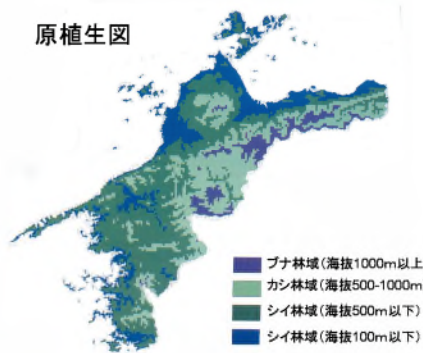
6000年前の四国の森林の様子を紹介してもらいました。愛媛県の大部分はシイ・カシ林だったそうです。500mぐらいまではシイ林が広がり、アカマツなどもみられました。500m~1000mぐらいはカシ林が広がりヒノキ・モミ・ツガなどが見られました。1000m以上になるとブナ林がひろがっていました。

1960年代になると、雑木林が植林になってきたそうです。70%が植林に置き換わりました。そのため自然林は山奥にしか残っていないそうです。里山の現代的価値は自然探索、環境学習、やすらぎ・癒し・潤い場所としての価値があり、多くの生き物の生息場所として野鳥、昆虫、獣、キノコ、木の実、蝶、などを見ることができ、季節感や色彩感：芽吹き、若葉、新緑、紅葉、落葉、花、木の実などを感じることができる場所になっています。

現存植生図



原植生図



原っぱの希少種は守れるか ~松山市内の堤防に生息する希少種保全の試み~  
伊予農希少植物群保全プロジェクトチームの報告です。



ある池の土手を生息地としていた希少植物が、生存の危機にさらされるようになったので、7種の希少植物が生えていたため池では、伊予農チームが保全活動に取り掛かりました。10月の時点で、7割の工事が完了していて、県が取り組んでいた表土を利用した保存対策はうまくいっておらず、希少植物は未施工部の斜面に残るのみ。種子の成熟まで工事を待ってもらい、12月、希少植物の種子採取と株の掘り取りを行いました。

採取した種子は、環境と繁殖の因果関係を解明するため、低温処理による発芽実験を行い、発芽したものを現地に移植し、経過を観察しています。掘り取った株は別の場所に植え替えて、手入れをしています。また、近くの小学校にも協力を仰ぎ、苗を育ててもらっています。

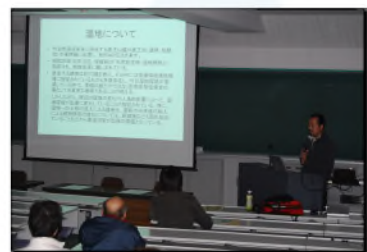


次は大西さんから今治市蛇越池湿地における環境総合調査の報告をいただきました。



自生する植物は約70種を数え、その中には愛媛県絶滅危惧種に指定されているものも多数存在し、景観の面だけではなく生物多様性保全の場としても貴重な地域であることが伺える場所です。しかしながら、周辺の環境の変化や人為的影響によって、湿地環境が急速に変化していることがわかっています。特に、湿地への土砂の流入による陸地化、遷移や外来種の移入による植物群落の変化については、絶滅種なども現れ始めていることなどから保全対策が急務の課題となっています。保全のための土砂除去範囲にはセイタカアワダチソウが密集しており湿地特有の植物をはじめ他の植物はほとんど見られません。土砂を除去した後、除去範囲の周辺から表層泥炭を、ツルヨシおよびセイタカアワダチソウの根の除去処理を行い土砂除去部に薄く(2cm程度)投入します。その様子をモニタリングすることによって、他に湿地内で陸地化している場所についても応用できる土砂の除去方法を考察します。

大西さんに対し、昆虫の調査もやってほしい、落ち葉の流入に対しての質問、植物の看板についての不満点など、いろいろな質問が出ていました。



県内で初の大規模里山づくりに挑戦する - 今治市西部丘陵公園での里山復元計画 -  
今治市役所公園緑地課 日浅裕二さんから報告をいただきます。

今治西部丘陵公園整備計画として

1. 里山の自然を感じ、心が安らぎ元気がみなぎる公園づくり
2. 里山の自然観察、オオタカ等の生息環境再生活動などを通じて、自然のちからを知り、学ぶことができる公園づくり
3. 棚田の再生と作物栽培、竹加工、炭焼きなどのものづくりを通じて自然に働きかけ、育てる喜びを子供から高齢者までが四季をつうじて楽しめる公園づくり
4. さまざまなふれあい活動を通じて、人と人、人と自然の共生を深める公園づくりを基本方針とし、里山を意識した講演の各場所のイメージを教えてくださいました。



渡り鳥の調査を行っていて、どの種類がどれくらい飛来しているかを調べているそうです。写真のアオジは2005年10月26日に福島県で捕獲され2007年11月5日に、由良野の森で再捕獲されました。



除伐前



除伐後

除伐をすることで、地面にも光が当たるようになり、木の生長を妨げず、新芽や下草が生えてきて、里山の理想の状態に近づけているそうです。

このような里山復元のイベントなどは郊外からの参加者はいるのか?という質問があり、だいたいが地元の参加者であるそうです。

最後にNPO法人 愛媛生態系保全管理の山本 栄治さんから由良の森で実践されている里山復元について報告していただきました。



様々なトラップを使い、落ち葉調査・昆虫の調査、そして標本作りをしています。



今回、里山シンポジウムに参加していただき、里山復元について実践する人たち、復元場所の周辺に住んでいて環境を見守っている人たち、興味があって参加していただいた人たちの様々な考えに触れることができ、これからの里山復元の方法やヒントについてお互いの理解を深めることができたシンポジウムになりました。